

3. 地域経済の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいである。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 5 月)	今回 (平成 14 年 8 月)	
住宅建設	減少	緩やかに減少	
雇用情勢	さらに厳しさを増している	依然として厳しい	

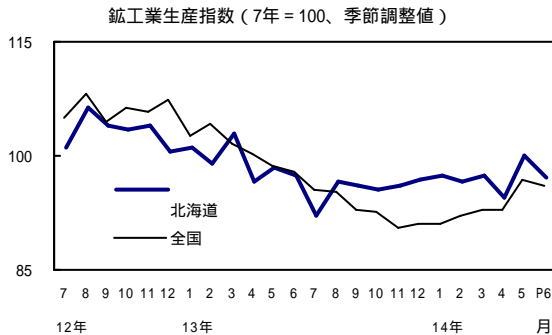
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産業は前年を下回っている。

生乳生産(前年同期比)は、飲用牛乳向け、乳製品向けが増加したことなどから、4～6月期は4.5%増となった。水産業(主要10港、前年同期比)は、スケトウダラが増加したもののカレイ類、タラが減少し、4～6月期は水揚量では15.0%減、金額でも10.5%減となった。

(2) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

食料品・たばこは、水産加工品で動きがみられるもののほぼ横ばいで推移している。紙・パルプは、輸出向け需要増により印刷用紙に動きがみられた。窯業・土石は、道外向けのセメント等に動きがみられたが公共工事関連需要の減少等から低調に推移している。金属製品は、軽量鉄骨、橋りょうに動きがみられたものの、減少が続いている。電気機械は、3月の携帯電話の新型機種製造に伴う受注増の反動により減少に転じた。国内向けの自動車部品が堅調で、輸送機械、鉄鋼業が増加している。



(備考) Pは速報値。

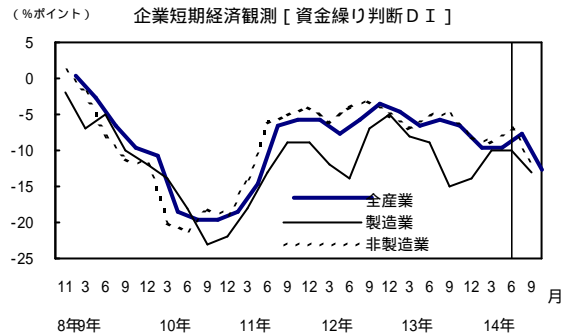
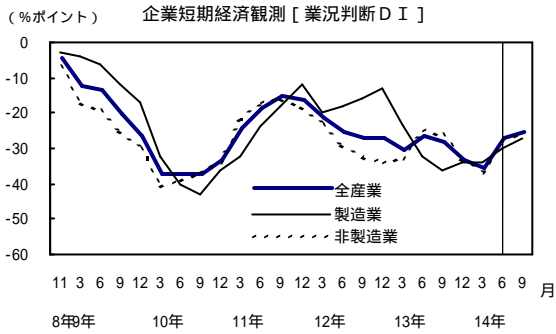
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
食料品・たばこ	24.2	0.0	0.9	5.0	3.9
紙・パルプ	13.1	1.9	1.5	3.9	7.8
窯業・土石	10.8	0.5	5.6	5.0	2.2
金属製品	8.4	2.6	1.7	1.7	17.4
電気機械	8.0	15.5	2.7	1.3	12.2
鉱工業	100.0	1.0	0.2	1.9	4.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

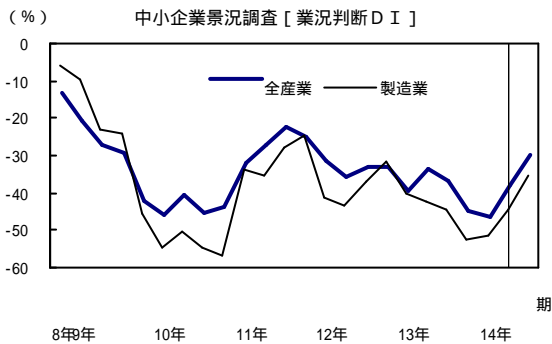
2. 4～6月期は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

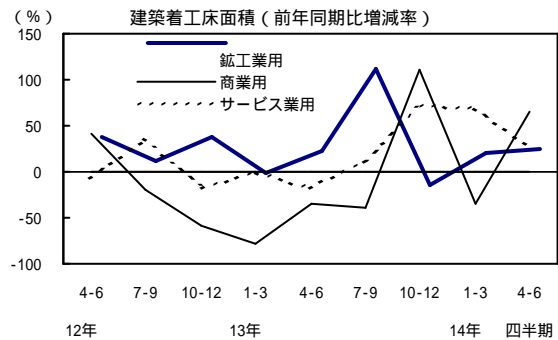
「商談数や商談規模からみて、この数か月間やや上向きの感じを受けていたが、今月に関しては3か月前と比較してほぼ横ばいである (通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

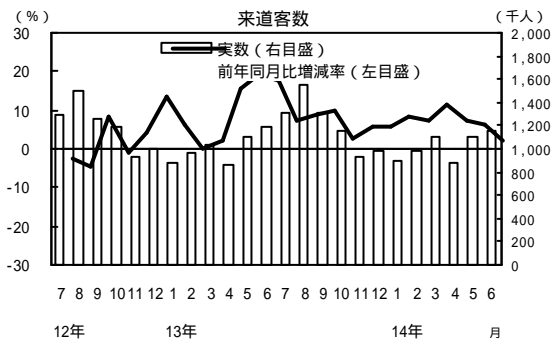
	(前年度比増減率、単位：%)	
	13年度実績	14年度計画
全産業	12.2 (3.7)	10.6 (0.9)
製造業	17.3 (3.2)	19.8 (3.9)
非製造業	9.4 (4.0)	6.0 (0.3)

(備考)()は前回 (3月) 調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は持ち直しの動きが続いている。

来道客数 (前年同月比) は、4~6月期は0.8%減となった。サッカーワールドカップの影響等で、同時期に開催された「YOSAKOIソーラン祭り」は観客数が昨年を50万人下回り、6月は6か月ぶりに前年を下回った。しかしツアー客の増加や、台湾、香港を中心に海外の観光客の増加がみられ、持ち直しの動きが続いている。



(備考)北海道観光連盟調べ。

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

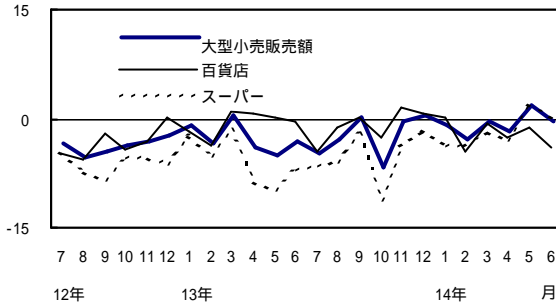
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、4月は身の回り品、飲食料品が引き続き好調であったものの、主力の衣料品が低調のため全体で前年を下回り、5月も一部でリニューアルに伴う売場面積の縮小や天候不順等から前年を下回った。6月はこれまで好調に推移してきた身の回り品が前年を下回り、全体でも5か月連続で前年を下回った。スーパーは、主力の飲食料品が5月に前年を上回り、全体でも32か月ぶりに前年を上回った。4～6月期でも増加に転じている。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「年々早まる夏の売りつくしセールを本年度も前年より早く行っているが、値下げ待ちの客が非常に多い(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(%) 大型小売店販売額(店舗調整済、前年同月比増減率)



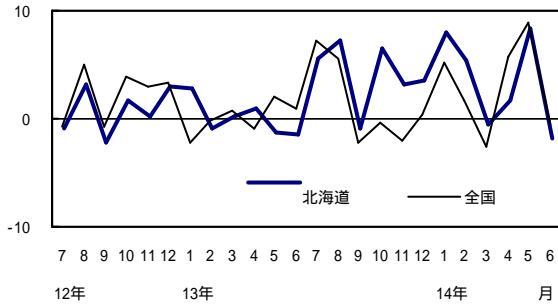
(前年同期比増減率、単位：%)

	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月
大型小売店	3.8	3.1	2.4	0.6
百貨店	2.0	0.1	1.5	2.6
スーパー	4.9	5.1	3.0	0.7
乗用車	2.3	3.1	1.3	1.1
景気ウォッチャー	35.9	32.5	34.9	40.0

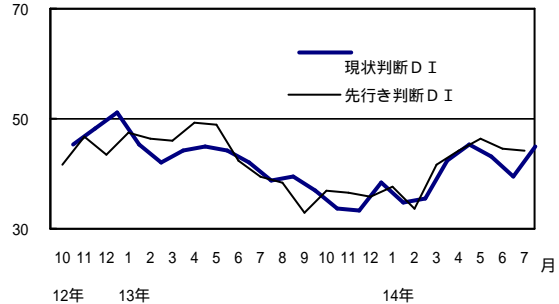
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。

(%) 乗用車新規登録・届出台数(前年同月比増減率)



景気ウォッチャー調査(家計動向関連D I)

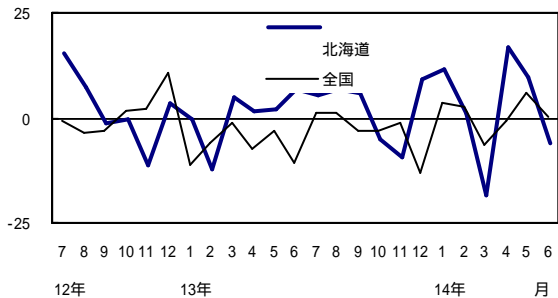


(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

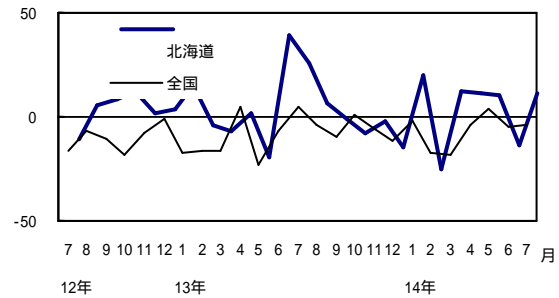
貸家がこのところ増加傾向であるが、持家が前年を下回っており、全体では緩やかに減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

(%) 新設住宅着工戸数(前年同月比増減率)



(%) 公共工事請負金額(前年同月比増減率)

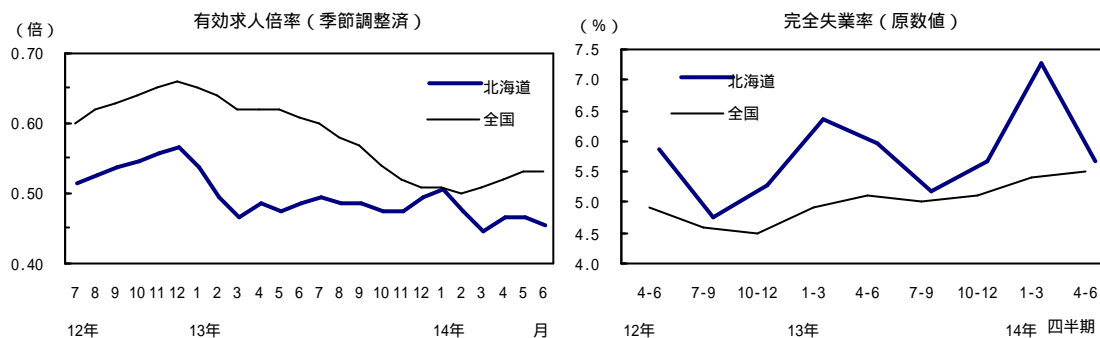


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は4期ぶりに前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査) [雇用関連 (現状判断)]

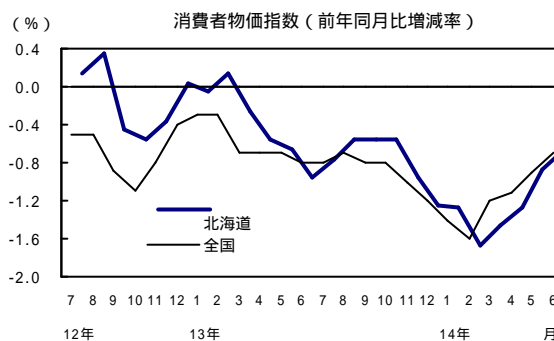
「求人件数は業種によって微増微減と様々であり、全体でみると変化はない(求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月	7月
倒産件数	204	203	201	186	70
(前年比)	15.0	12.2	16.6	2.6	1.4
負債総額	999	618	887	596	315
(前年比)	2.9	9.4	25.2	84.5	55.2



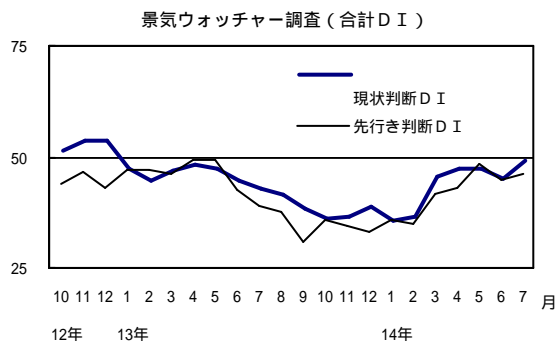
景気ウォッチャー調査 (7月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

・夕方以降に雨になる日が多く、週末や月末でも来客数が大幅に減少する日もあるが、昼の団体客を中心に個室利用が堅調であり、全体でみると変わらない(高級レストラン)。

<先行き>

・来客数は3年前の一番いい状態だったころの水準に回復しているが、客の買物の様子を見ると、500円前後のお弁当よりも、低価格の280円や380円の小さなお弁当とカップラーメンの組合せで買う客が目立ち、客単価がなかなか上昇しない(コンビニ)。



(2) 東北



東北地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢はさらに厳しさを増している。

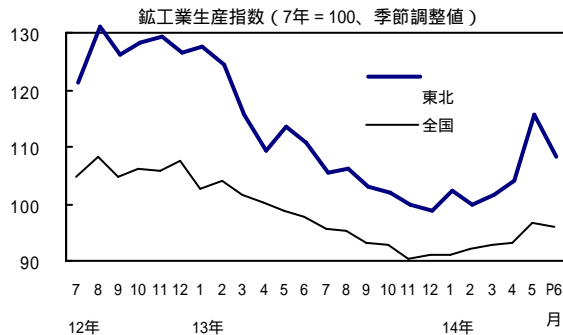
前回調査からの主要変更点

	前回（平成14年5月）	今回（平成14年8月）	
総括表現	依然として厳しい状況にある	下げ止まりつつある	
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加傾向	
住宅建設	緩やかに減少	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加傾向にある。

電気機械工業は、海外向けの電子部品を中心に生産は大幅に増加し、持ち直しの動きが続いている。食料品は、冷凍水産物、飲料が一進一退で推移している。一般機械は、金型、産業用ロボット等で動きがみられた。窯業・土石は、セメントが減少している一方で電子部品向けファインセラミックス、ガラス長繊維製品等の増加により、大幅に増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

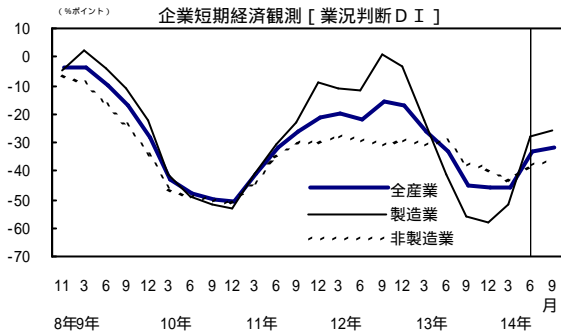
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電気機械	34.8	6.6	14.9	12.5	8.2
食料品・たばこ	9.3	0.2	4.6	5.2	2.8
一般機械	7.5	5.1	10.6	6.0	1.1
繊維	6.7	0.4	3.2	4.6	0.0
窯業・土石	6.3	2.8	12.8	15.4	7.7
鉱工業	100.0	1.1	8.3	5.9	3.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種

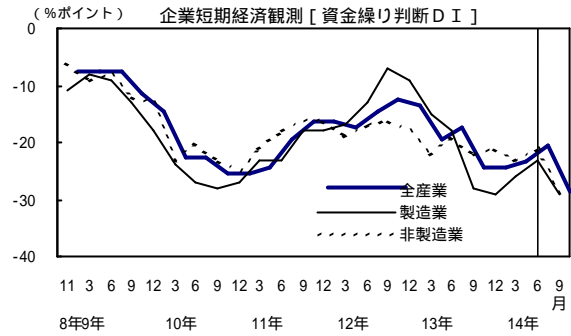
2. 4~6月期は速報値

(備考) Pは速報値

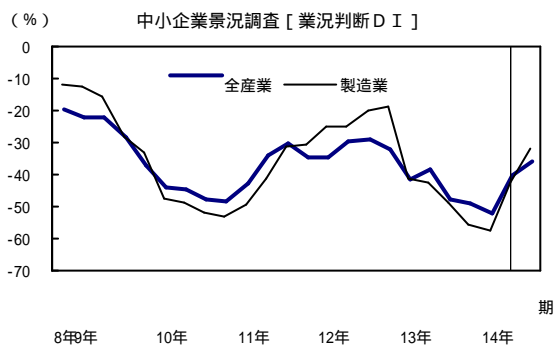
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。9月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「サッカーワールドカップが終了し、飲食店消費が戻ったため、中心商品の出荷が回復して順調である。しかし3か月前とはあまり変わらない(食料品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

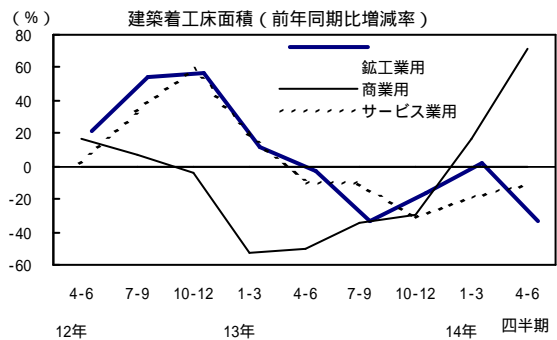
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	29.2 (2.4)	11.0 (4.1)
製造業	38.4 (0.1)	16.2 (0.8)
非製造業	15.0 (5.4)	5.2 (7.6)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

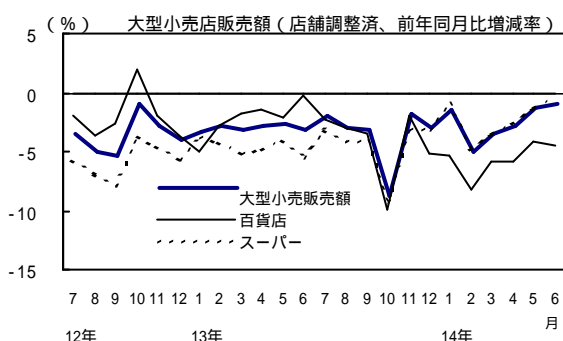
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、化粧品、貴金属で動きがみられ、飲食料品では、催事や地下食品売場の改装効果などにより増加に転じたものの、主力の衣料品は、初夏物が例年より前倒して売れた反動や、ゴールデンウィーク以降の天候不順により動きが悪く前年を下回っている。民事再生法を申請した百貨店の店舗での売上悪化の影響が大きい。

スーパーは、主力の飲食料品では、飲料、加工食品に動きがみられたことに加え、青果の相場安の回復もあって前年を上回っている。しかし、サッカーワールドカップの影響による入店客数の減少や、天候不順による衣料品の不振などにより、全体では前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「新型車発売に伴い来客数は増えているが、賞与が減少しているためか購買意欲が弱い(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

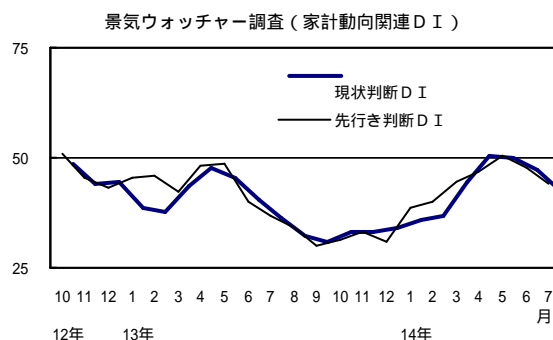
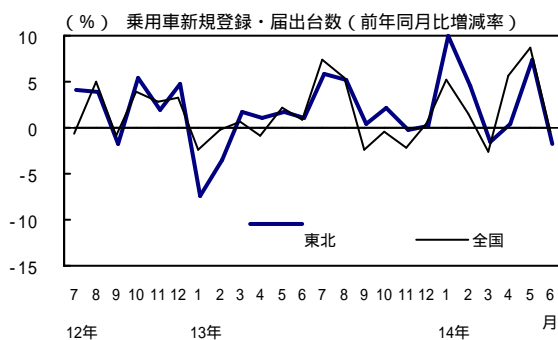


(前年同期比増減率、単位：%)

	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月
大型小売店	3.5	5.3	4.0	2.5
百貨店	2.9	5.7	6.3	4.8
スーパー	3.7	5.1	2.9	1.4
乗用車	1.9	1.0	0.5	0.0
景気ウォッチャー	29.6	29.8	35.5	45.6

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

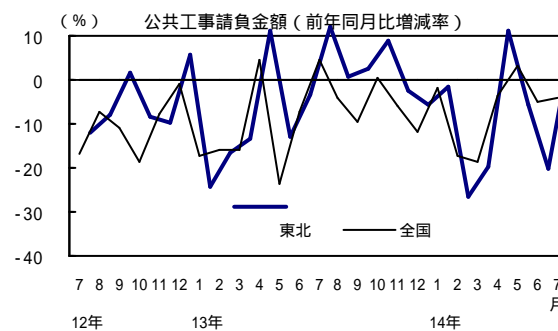
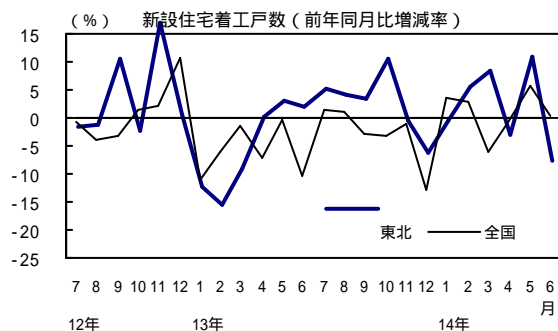
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家は前年を上回っているものの、持家、分譲が前年を下回り全体では減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

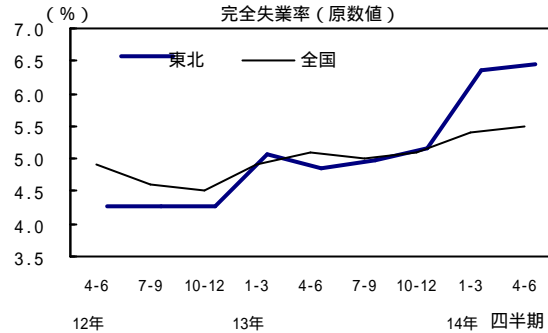
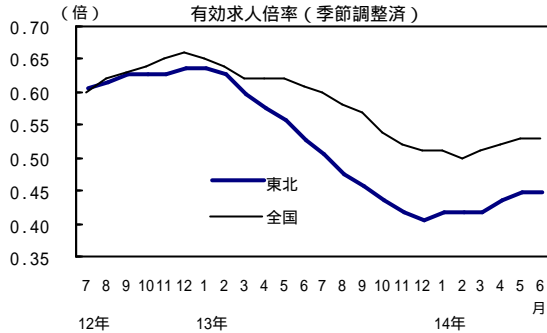


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢はさらに厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、上昇している。完全失業率は、前年同期を大幅に上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査（7月調査）[雇用関連（現状判断）]

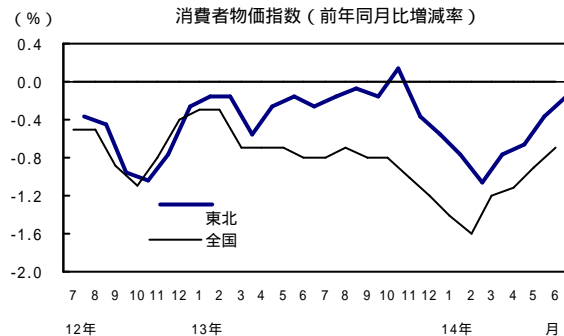
「半導体など比較的受注のある業種では良いが、同じ製造業でも他の業種では雇用調整の動きがある(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月	7月
倒産件数 (前年比)	357 10.1	385 3.8	402 3.1	399 1.8	134 12.6
負債総額 (前年比)	1,990 28.3	1,162 1.5	1,637 19.0	1,372 24.3	294 12.8



景気ウォッチャー調査（7月調査）[合計D I（特徴的な判断理由）]

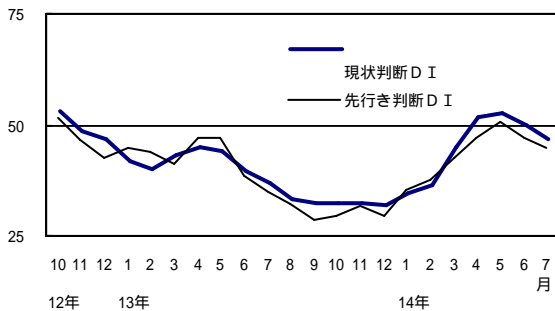
<現状>

・3月ごろから少しずつ客の様子が良くなり客単価も上昇気味であったが、今月に入ってから元に戻り、買い控えや安い商品しか売れない状況になっている（スーパー）

<先行き>

・半導体の大口顧客であるパソコンや携帯電話の受注の伸びが思わしくなく、2、3か月先は現状の受注量で推移するが、その後が心配である（電気機械器具製造業）

景気ウォッチャー調査（合計D I）



(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

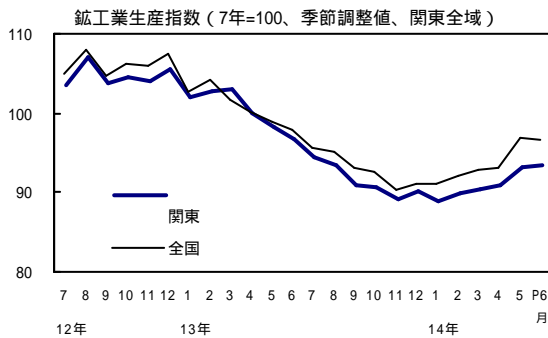
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 5 月)	今回 (平成 14 年 8 月)	
総括表現	下げ止まりつつある	持ち直しの動きがみられる	
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加傾向	
個人消費	やや弱含み	おおむね横ばい	
住宅建設	減少	緩やかに減少	
公共投資	前年を下回っている	前年を上回っている	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加傾向にある。(関東全域)

電気機械は、4月、5月と半導体素子等の好調から順調に推移してきたものの、6月はこれまでの反動から半導体素子やパーソナルコンピューターを中心に減少した。化学は5月の生産調整の反動から、6月にポリエチレン等に動きがみられた。一般機械はこのところ一進一退で推移しているが、5月に空気圧機器や軸受などを中心に増加した。輸送機械は基調として増加の傾向にあり、4～6月期には駆動伝導・操縦装置部品や普通トラックを中心に前期比で増加している。



(備考) Pは速報値

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

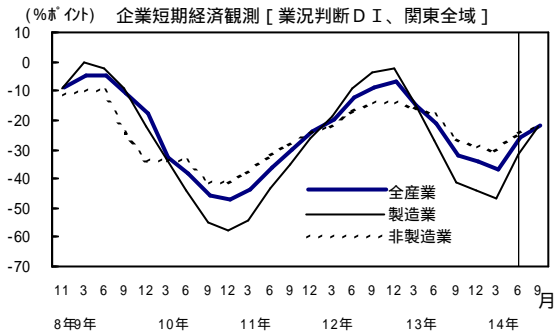
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
電気機械	23.6	0.6	6.0	7.0	5.2
化学	13.2	1.4	2.9	2.6	5.6
一般機械	12.0	2.3	4.6	6.1	10.7
輸送機械	11.3	2.1	7.7	5.7	14.5
食料品・たばこ	5.8	0.9	3.0	2.5	5.4
鉱工業	100.0	0.3	3.3	4.2	3.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種

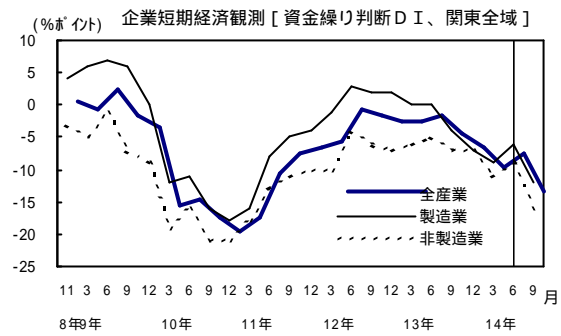
2. 4～6月期は速報値

3. 化学、食料品・たばこの在庫は平均在庫より算出

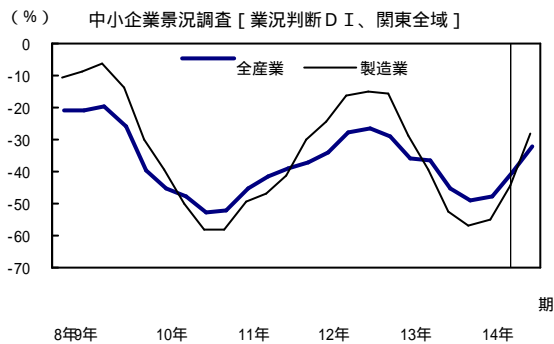
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

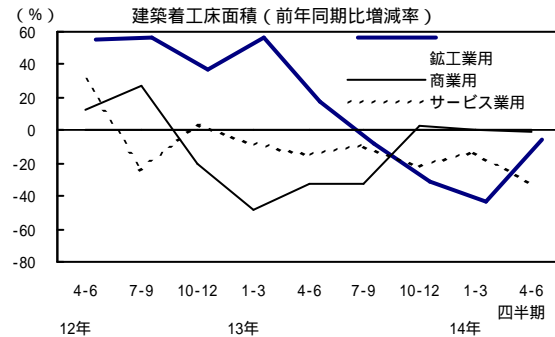
「上場している建設機械企業の工場は休業同様で、このところ下請けに倒産が出始めている。トラックや特装車両、工作機械などには、動きがほとんどない。金属製品製造の業界では、親工場は現行の低レベルの生産でも成り立つ事業構造作りに入っている (金属製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を上回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査、関東全域)]
 (前年度比増減率、単位: %)

	13年度実績	14年度計画
全産業	2.4(0.2)	0.2(1.9)
製造業	5.6(1.9)	11.0(3.5)
非製造業	3.4(0.0)	1.5(2.5)

(備考) ()は前回 (3月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

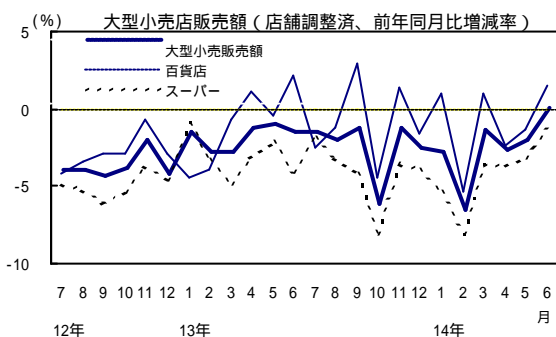
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、4月はブランド品など身の回り品が好調だったものの、下旬の天候不順等により衣料品が低調だった。5月は身の回り品や雑貨に引き続き動きがみられたが、季節衣料や家庭用品等が低調で、2か月連続のマイナスとなった。6月はサッカーワールドカップ開催による入店客数の減少があったものの、婦人・子供服や飲食料品が好調だったことから、3か月ぶりにプラスとなった。

スーパーは、飲食料品が好調であったものの、天候不順による季節衣料の伸び悩みなどから、依然として前年を下回っている。

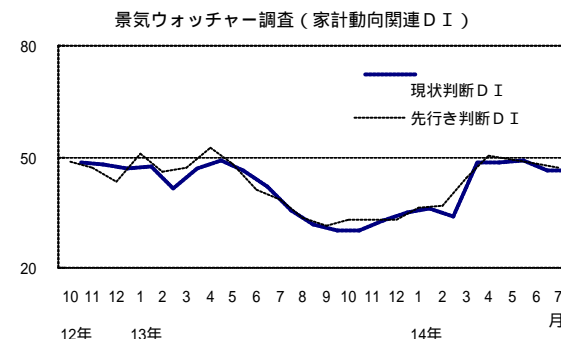
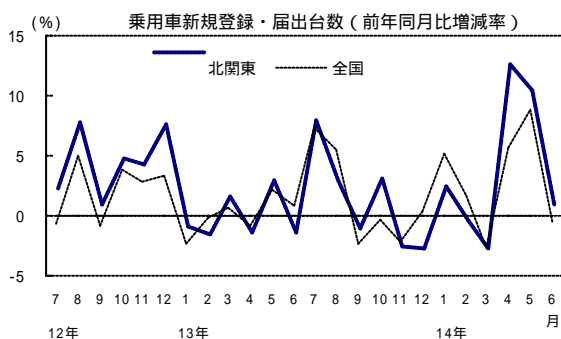
景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「7月は特に天候に左右される月であり、梅雨が明けても回復の兆しはなく台風で追い打ちをかけられている。前年より梅雨明けが遅いせいで夏物クリアランスの活気がなく、出遅れ気味で売上が低調である。一度チャンスを逸したら、取り戻すことは難しい(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月
大型小売店	2.2	3.9	4.1	2.1
百貨店	0.5	1.6	0.8	0.8
スーパー	3.0	5.1	5.6	2.7
乗用車	2.0	2.2	2.1	6.1
景気ウォッチャー	28.3	28.7	35.2	43.7

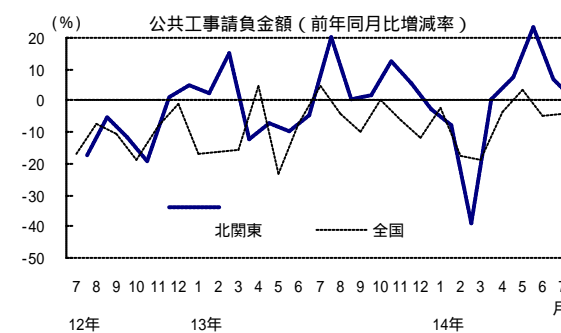
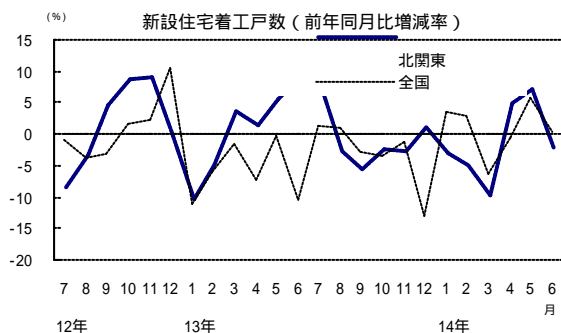
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

持家、分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、緩やかに減少している。

(3) 公共投資は前年を上回っている。

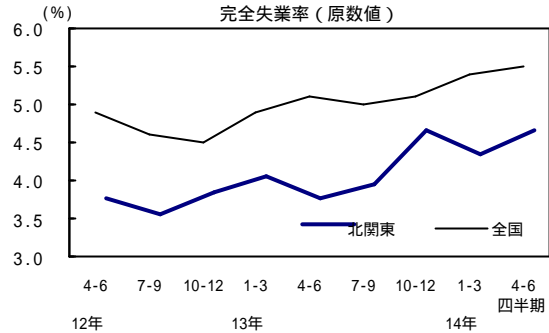
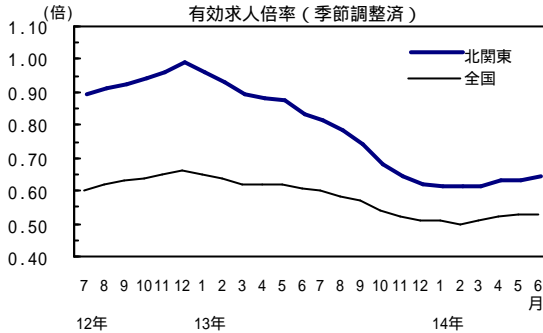


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はこのところ横ばいとなっている。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (7月調査) [雇用関連 (現状判断)]

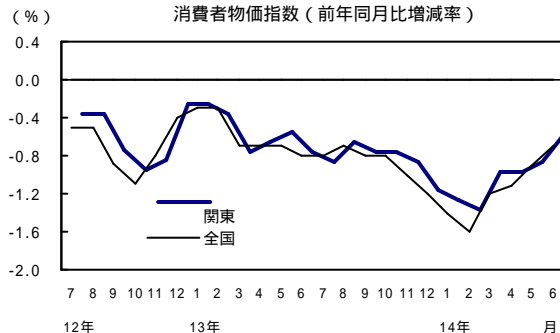
「大手メーカーが数千名のリストラを始め、周辺地域は混乱している。正社員の採用が少ないため、派遣、請負等に入れる人々が多くなるという不安定な状況が続いている (民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数が減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月	7月
倒産件数	242	299	253	249	83
(前年比)	6.9	18.7	5.0	5.0	31.7
負債総額	1,380	1,885	1,977	1,185	338
(前年比)	16.0	31.3	37.6	34.5	35.2



景気ウォッチャー調査 (7月調査) [合計D I (特徴的な判断理由)]

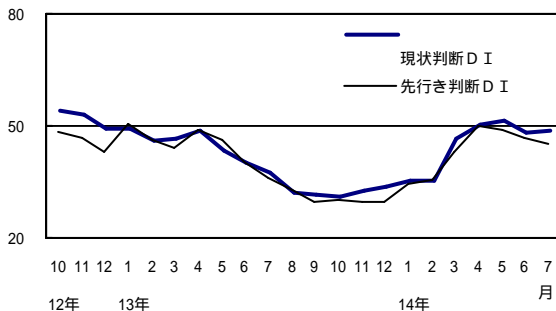
<現状>

・派遣依頼は徐々に回復しているが、景気を押し上げるような力強さに欠けている。今まで長期であった契約が1~2か月の短期に変わり、業種も単純な入力作業や一般事務職はほとんどない。国家資格取得などの条件や専門職の依頼が多く、契約成立が厳しい (人材派遣会社)。

<先行き>

・中元、歳暮のギフトが毎回低調で、前年割れが多い。今年は特に会社関係が厳しく、大手の法人の中元ギフトが中止になったり、中小法人でも、完全廃止が少しずつ出てきている (百貨店)。

景気ウォッチャー調査 (合計D I)



(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

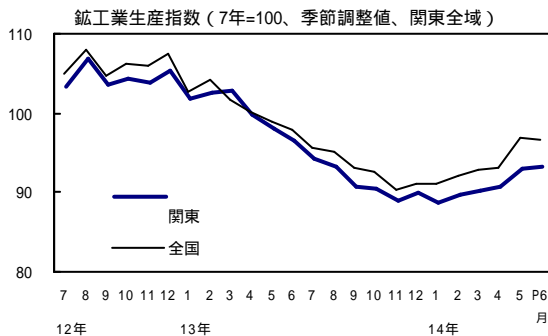
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 5 月)	今回 (平成 14 年 8 月)	
総括表現	下げ止まっている	持ち直しの動きがみられる	
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加傾向	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加傾向にある。(関東全域)

電気機械は、4月、5月と半導体素子等の好調から順調に推移してきたものの、6月はこれまでの反動や一部に生産拠点の移転などもあり減少した。化学は5月の生産調整の反動から、6月にポリエチレン等を中心に動きがみられた。一般機械はこのところ一進一退で推移しているが、5月に空気圧機器や軸受などを中心に増加した。輸送機械は基調として増加の傾向にあり、4～6月期には駆動伝導・操縦装置部品や普通トラックを中心に前期比で増加している。



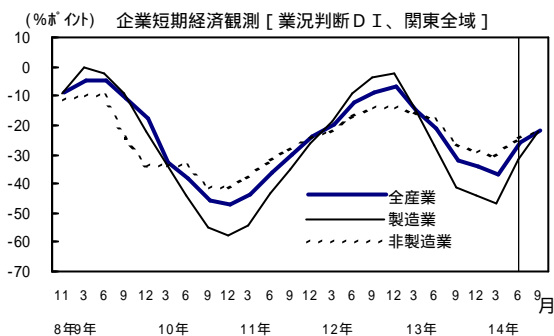
(備考) Pは速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

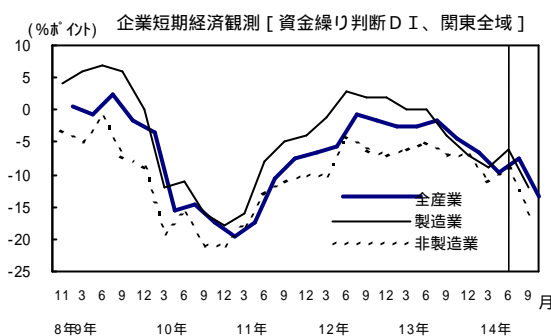
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
電気機械	23.6	0.6	6.0	7.0	5.2
化学	13.2	1.4	2.9	2.6	5.6
一般機械	12.0	2.3	4.6	6.1	10.7
輸送機械	11.3	2.1	7.7	5.7	14.5
食料品・たばこ	5.8	0.9	3.0	2.5	5.4
鉱工業	100.0	0.3	3.3	4.2	3.8

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種
 2. 4～6月期は速報値。
 3. 化学、食料品・たばこの在庫は平均在庫より算出。

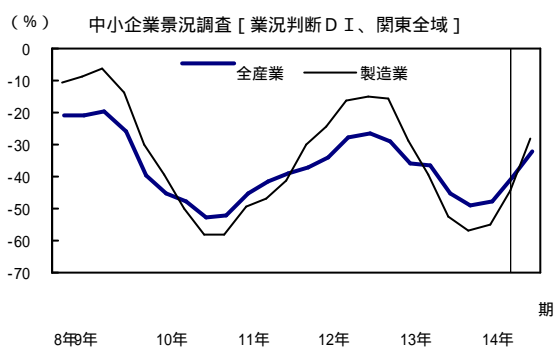
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。9月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査)[企業動向関連 (現状判断)]

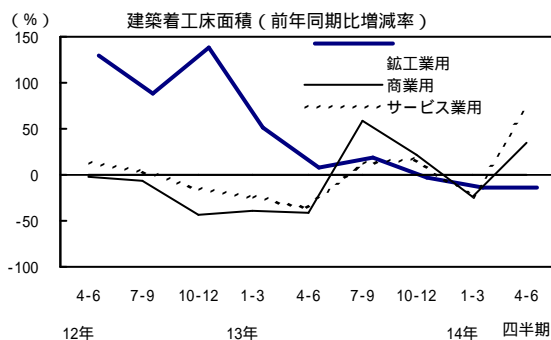
「少ない中でも多少は受注があり全般的には横ばいであるが、利益率が急激に下がり、非常に厳しい(建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を上回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査、関東全域)]
 (前年度比増減率、単位:%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	2.4(0.2)	0.2(1.9)
製造業	5.6(1.9)	11.0(3.5)
非製造業	3.4(0.0)	1.5(2.5)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

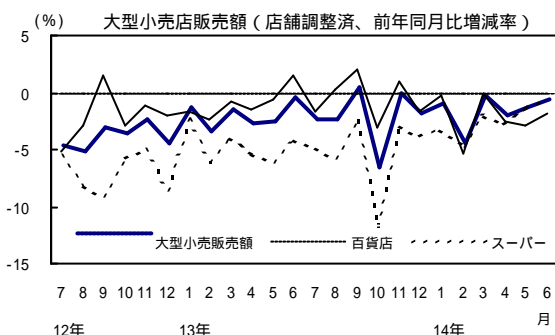
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、4月はブランド品など身の回り品が好調だったものの、季節衣料は伸び悩んだ。5月は中旬の気候・天候不順に加え、建装等大口需要の減退などにより、引き続き前年割れとなった。6月はサッカーワールドカップ開催による入店客数の減少が響き、3か月連続のマイナスとなった。

スーパーは、飲食料品が4か月連続で前年を上回ったものの、天候不順による季節衣料の伸び悩みなどから、依然として前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

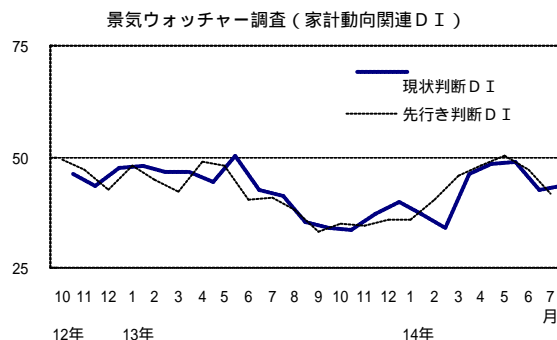
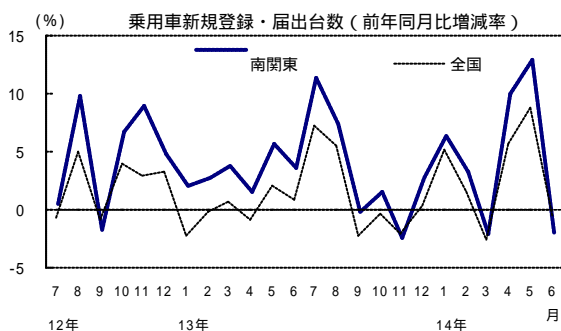
「食品表示に関する一連の問題の中で、中国の農薬問題が更に輪をかけており、消費者の食品への不信感をあおっている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月
大型小売店	2.2	3.4	2.4	2.0
百貨店	0.0	1.2	1.6	2.4
スーパー	4.4	5.9	3.3	1.6
乗用車	4.8	0.7	0.3	4.8
景気ウォッチャー	33.7	33.6	36.0	43.5

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

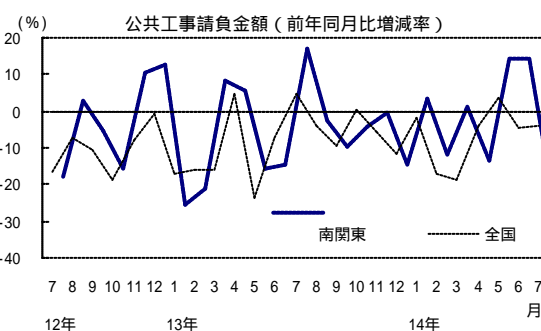
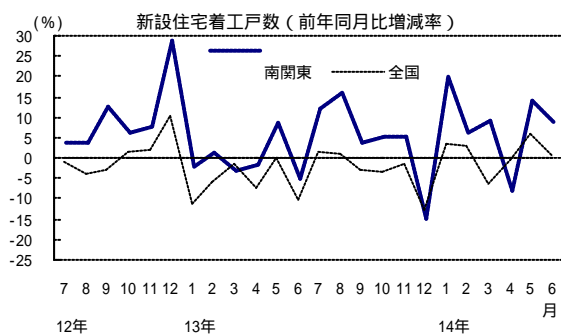
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

持家、分譲が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから、おおむね横ばいで推移している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

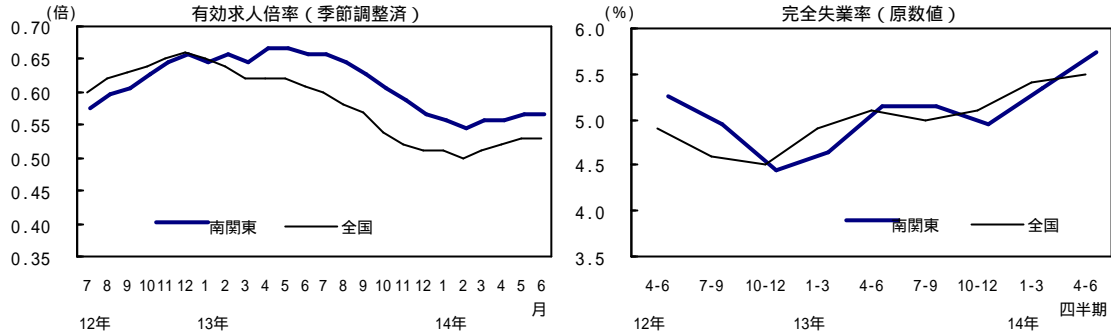


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連(現状判断)]

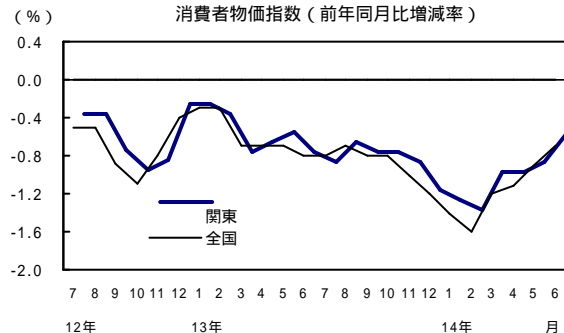
「新卒採用において、以前では考えられないほどの優秀な学生が第1希望で応募してきており歓迎できると、周辺企業の採用担当が話している(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月	7月
倒産件数	1,337	1,554	1,589	1,467	510
(前年比)	2.1	13.8	22.1	5.6	15.9
負債総額	10,699	25,511	23,476	14,201	4,017
(前年比)	69.9	71.8	19.1	40.9	36.0



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・サッカーワールドカップ以来、テナントである飲食店の売上は伸び悩み、物販店も紳士服を中心に売上の減少が目立つ。金を使わず、家庭で時間を過ごす傾向が強まっている(スーパー)。

<先行き>

・注文には至っていないものの、見積りは増加している。以前は見積の問い合わせもなかったもので、上向き傾向になっている(出版・印刷・同関連産業)。

景気ウォッチャー調査(合計DI)

